

SDGsと消費者志向経営

千葉商科大学基盤教育機構教授
ESG/SDGsコンサルタント

笹谷 秀光

S A S A Y A H I D E M I T S U

※ SDGsマークはすべて国連広報センターによる

なぜ、共通言語 SDGs を使うのか

「グレート・リセット(大変革)」(Great Reset)

Xの時代 CX DX HX GX D&IX SX

SDGs
Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)



「我々の世界を**変革**する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」

“**Transforming** our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development”

35ページの国連文書の中で15ページ弱を占める
17目標 169ターゲット 232指標

消費者志向経営とSDGs

SDGs12 を軸に自分事化



SDGs図版はすべて国際連合広報局
当てはめは筆者



SDGs12. 持続可能な生産消費形態を確保する



ターゲット

12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。

指標

12.8.1 (i)地球市民教育及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b)カリキュラム、(c)教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、主流化されているレベル（指標4.7.1及び13.3.1と同一指標）

千葉商科大学・基盤教育機構教授、ESG/SDGsコンサルタント、
博士(政策研究)

東京大学法学部卒業。1977年農林省入省。2005年環境省大臣
官房審議官、2006年農林水産省大臣官房審議官、2007年関東
森林管理局長を経て、2008年退官。同年伊藤園入社、取締役、
常務執行役員を経て2019年退職。現在、千葉商科大学教授

(主な兼職)日本経営倫理学会理事、グローバルビジネス学会理
事、特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム理事、
宮崎県小林市「こぼやしPR大使」、文部科学省青少年の体験活動
推進企業表彰審査委員、未来まちづくりフォーラム実行委員長

主な著書 「CSR新時代の競争戦略-ISO26000活用術」(日本評論社・2013年)「協創力が稼ぐ時代—ビジネス思考の日本創生・地方創生」(ウイズワークス社・2015年) 環境新聞ブックレットシリーズ14「経営に生かすSDGs講座」(環境新聞社・2018年)「Q&A SDGs経営」(日本経済新聞出版・2019年)、「3ステップで学ぶ自治体SDGs」(ぎょうせい・2020)。



▶笹谷秀光の公式サイト-発信型三方よし-

<https://csrsdg.com/>